

# 運動の前進に確信もち、さらに飛躍を！

## 郵政ユニオン関東第3回定期大会

### 20条裁判、 総資本 VS 総労働

27日にさいたま市民会館において郵政ユニオン関東の第3回地方大会が開催された。

委員長挨拶で、「労契法20条裁判」は職場の非正規社員から関心が高い。株式上場を控え中期経営計画はさらに儲けられる企業への変遷が目的。職場から「格差社会」をなくす運動を広げよう。

来賓の塩川衆議員（共産）は、公社時代に郵政のサービス残業問題を取り上げ、32億円の残業代の未払いを払わせた。利益至上主義はサービスを受ける側にも弊害を及ぼすもの。安倍政権の「競争する国づくり」に皆さんと共に反対し、たたか



いを広げましょう。

埼玉労連からは、郵政の仕事は地域住民と結びついている。住民課題と共に前進出来るよう埼玉労連も共に奮闘する。

中央本部からは、郵政ユニオンの結成はナショナルセンターの違いを超え、非正規労働者に寄せ。一人ひとりの組合員に依拠した運動。その結成の意義を活かす裁判が「労契法裁判」。この裁判は「総資本と総労働」の闘いに発展してきている。共に奮闘しよう。

### 教訓活かし、運動広げ

討論では、20条裁判原告の非正規組合員は、「職場でも、地域でも運動を広げていきたい」。

女性部からは、障害者枠で採用されている女性に対し、「雇い止めに誘導」するようなことが起きた。女性の交流を広げていきたい。1など、7支部から発言を受け、書記長の討論に対する答弁を受け、新役員を選出し閉会してきました。

### 休憩室

#### 「社員を守るため」と

#### 聞こえはよいが

4半期に一度のロッカー点検、今では「社内に持ち込んでいる個人のカバンの中身まで任意で確認する」ことにも発展している。ある社員のカバンから、かもメールが出て、「営業張っているな」なんて会話もロッカーから聞こえる。

「ロッカー点検」は、個人のプライバシーもあり「任意である」と確認されている。しかし、会社からは「点検は任意」といった説明もなく「点検」で拒否している社員には、別の社員から「点検受けてないのは、疚しい物があるんじゃないの」と、言われたりする。社員を疑い「犯罪者扱い」する「点検」を会社は「社員を守るため」と言うが、社員のプライバシーは守れなくてよいのか。(い)



# 疑われ・監視・強要され、何処が「安心して働ける職場」か！

## 命と郵政事業を守る労使共同宣言 労働条件確保こそ必要

仕事前の郵便体操は「かけ声」も含まれ監視され、逆に配達前の「整備・点検」の時間は「かけ声」も含まれ多くなり出発時間にも急いで配達など、交通事故撲滅には、程遠い職場の現実があるのではないだろうか。

部内者犯罪も含め「社員を守るため」と、「事業を支える重要なパートナー」のJP労組との「交通事故と部内者犯罪の根絶に向けて」としての「労使共同宣言」。

捺印欄を設けた社員の「回覧」文書として回す念の入り用だ。集配業務は、人手不足で毎年、36協定の上限



を脅かすほど「余裕のない」業務に追われていることは「労使宣言」より「大幅な増員」や仕事に見合う労働条件確保のためにこそ取り組むことが必要ははず。

## 事業はみんなで支えてる

もう一方の「部内犯罪」では、社員を犯罪者扱で強要する「ロッカー点検」「カバンの中身まで見る検査」など個人のプライバシーもあつたものではないありません。人権をも侵害する行為を「社員を守るため」と言うことで「共同宣言」することに異常な違和感を私は覚えません。

職場には、「事業を支えている」のはJP労組以外でも未組織や私達、郵政ユニオンの組合員だつて同様のはずであり、このようない共同宣言」が押しつけるようなこと

(岩井)



## あの空に返ろう！ JAL不当解雇撤回 千葉報告決起集会

7/23日に市川文化会館で「JAL解雇事件・東京高裁不当判決に抗議し裁判勝利に向け、ちば報告決起集会が開催された。支部からも組合員が参加してきました。

一審で「不当判決」が出、6月末の2審（高裁）でも一審同様に全く「会社の言い分」しか判決に採用しない裁判所に、強い憤りていっばいの原告や支援者。たたかう組合潰しと安倍政権が狙う「世界で一番企業が活動しやすい『解雇自由』の国」つくりのために動いてきている裁判の結果。と、言えます。

判決の中身でも国が選任された管財人だから「判断」は妥当だとか余剰人員の立証も労働者側に押しつけ、会社の立証責任は不問にするなど偏向な立場も告発された。

2審判決の欠陥を最高裁で明らかにし勝利の門を開きたいと弁護団の決意と原告と支援者が、国民を動かすようなたたかいへの発展を誓い合う報告集会でした。

## 「子どもや恋人を戦争で失いたくない」

若いお母さん、女性が多く一緒に歩きました

第30回 浦安平和行進(7/20)

## 原水爆禁止世界大会(広島)に向け、 今年も歩きました

今年の5月に北海道(礼文)・東京(夢の島)をそれぞれ出発し、8月の広島・長崎で行われる原水爆禁止世界大会前に全国を歩いてつなぐ平和行進。浦安コースは30回目となります。国民の反対の声を聞かず原発輸出・再稼働を進める安倍政権は、さらに「集団的自衛権行使」の「閣議決定」を、7月に強行し、「戦争する国」へ大きく転換を図ろうとしてきていることに、「再び、侵略の銃をとらせない」「核の被害を広げない」「子どもや、孫に平和な日本を、9条を守れ」と言う願いや思いを持ってこの平和行進が広がり、浦安の平和行進には若いお母さんや女性が多く参加してきました。あいにくの雷雨もあり、行進は浦安市役所まででしたが、参加者の広がりには確信を持って「浦安コース」でした。(い)